

## 建設部会長報告

第2回建設部会（オープン部会）を、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じた上で、7月30日に秋田県社会福祉会館で開催し、44名（うち部会員12名）が出席しました。

今回は、全国でも先進的な空き家問題への取組と評価を受けている特定非営利活動法人つるおかランド・バンクの廣瀬大治氏をゲストに招き懇談しました。

### 【懇談】

**テーマ** スポンジ化した地域の面的再生等へ向けた取組事例

**ゲスト** 特定非営利活動法人つるおかランド・バンク 理事長 廣瀬 大治 氏

- ・鶴岡市中心居住地域は、①城下町時代の大きな区割り、②狭い道路や行き止まり・一方通行道路、③除雪による道路幅の狭まり一の車社会に非対応した3つの問題がある。
- ・不動産に関わる有資格者の専門家のほか、早稲田大学や銀行、行政の役員構成で平成25年に法人設立。空き家・空き地・狭隘道路を密集住宅地の一体的問題として捉え、通常の市場流通が難しい物件で小規模連鎖型の区画再編事業による中心市街地居住地域の活性化を図っている。
- ・また、つるおかランド・バンクファンドを創設し、鶴岡市をはじめ民間都市開発推進機構、市民や企業から3,000万円を集めて、整備関係の助成金のほか、中心市街地の権利が錯綜する空き家解体、敷地再編、転売等では権利者調整で多大な時間を要するため、宅建業者、行政書士、土地家屋調査士等の法的手数料ロス部分を補填するなど、助成金をメニュー化している。
- ・このほか、空き家のメンテナンスを行う委託管理事業や、シェアハウス・カフェなどへ転換させる空き家コンバージョン事業、空き家バンク事業など多岐に亘る業務を展開している。
- ・鶴岡市と共催により年3回実施している相談会では、昨年は80組の相談があり、地権者が認知症などの理由で処分困っているとの相談が増加している。



### 【情報提供】

①秋田市都市整備部住宅整備課 課長 須磨 一郎 氏

（秋田市の空き家の現状と支援策について）

- ・平成30年住宅・土地統計調査結果による秋田市の空き家は、住宅総数157,650戸に対し、空き家戸数20,840戸で空き家率は13.2%（全国13.6%）。空き家は増加傾向にある。
- ・住宅施策を含めた空き家対策支援として、①情報提供では、空き家バンク制度、住宅情報ネットワークサイト、②補助等では、住宅リフォーム支援事業、空き家定住推進事業、多世帯同居・近居推進事業、老朽危険空き家等解体撤去補助金等、③相談では、空き家特措法や条例等に基づく助言・指導、空き家所有者等無料相談会一を実施している。

②㈱秋田銀行 営業支援部 主査 工藤 慎 氏

（大仙市との空き家対策に向けた地方創生連携協定について）

- ・大仙市内の空き家の利活用や市場への流通促進を図ることを目的に、平成31年3月に大仙市と連携協定を結び、情報発信や顧客紹介するスキームを構築。
- ・今後は、オンラインセミナーの開催のほか、空き家を活用したい側のプロモーション施策の検討や、大仙市内の不動産関連事業者との連携を強化していくこととしている。

以上が建設部会からの報告です。